

ディアスポラの働きのための 20 日間の祈り

注：個人情報保護のために、個人名は仮名にし、時に地名も変更してあります。

第一週

新型コロナは人々の移動に大きな影響を与え、多くの国が国境を制限もしくは閉鎖しましたが、今年は国をまたいだ移住のペースが上がり、2億8,100万人が出身国以外で生活することになると言われています。世界を移動している東アジア人の中に、イエス様を信じる人々が起こされていることを感謝します！

■小さな部屋

あるシュネム人の女性は、預言者エリシャの必要を知って、彼が滞在できるように小さな部屋を用意しました。多くのクリスチャンも同じように、移住してきた東アジアの人々を歓迎するために、自宅の空いている部屋を用いています。デビーさんはヨーロッパに留学していたとき、そのような家族の家に滞在しました。彼女は彼らの生活ぶりを見て話をし、教会に通ううちに福音を理解し、やがて主を信じるようになりました。ホストファミリーと生活を共にしたことは、彼女がキリストを知る上で大きな役割を果たしました。彼女はイエス様を信じて母国に帰り、家族にもイエス様を知ってもらいたいと切望しています。「小さな部屋」のおかげで、私たちはもう一人キリストにある姉妹を新しく持つことができたことを感謝します。

お祈りください: デビーさんの家族がキリストを信じるように。より多くのクリスチャンが「主よ、あなたの御名によって誰かを歓迎するために、私の持ち物をどのように使うことをお望みですか」と尋ねるようにお祈りください。

■連鎖するリンク

ジュディスさんは、イギリスに留学する前は福音を聞いたことがありませんでした。今、東アジアに戻った彼女は、人々の間で地の塩、世の光として生きています。彼女の信仰は、賜物豊かな一人の伝道者がもたらしたものではありません。英国での数か月間、神様は様々な人々を連鎖的に用いられたのです。アジアで働いた元宣教師が、まず彼女に福音を伝えました。次に、彼女の同級生の一人（彼女の母国の教会の一牧師）が、彼女にイエス様のことを話し、彼女を外国人のための聖書研究グループに紹介しました。そして、そのグループのリーダーたちが、もっと個人的に母国語で一对一の聖書の学びができる人をジュディスさんに紹介したのです。ジュディスさんの心は開かれ、福音を受け入れる準備が整いました。そして間もなく、彼女は主イエス様を信じて救われたのです。

お祈りください: ジュディスさんの人生における神様の御業を賛美し、彼女が母国で福音を伝え続けられるようにお祈りください。種まき、水やり、収穫などを通して、すべての教会がすべての国の人々を弟子にしていくことができるようにお祈りください。

■失われた息子

タイの10代の少年・少女たちは、あまりクリスチャンのユースグループに参加しませんが、チャイさんは幼い頃からユースグループに定期的に参加し、洗礼も受けました。現在、彼はポルトガルに住み、タイレストランで働きながら、LGBTQ（性的少数者）のコミュニティの一員となっています。しかし、ポルトガルで休暇中の一人のクリスチャンがレストランを訪れたとき、彼にイエス様について話すことができ、一人のタイ人のクリスチャンも最近彼のレストランを訪れました。

お祈りください: 最近、チャイさんに福音を分かち合う機会が与えられたことを感謝しましょう。彼が主に立ち返ることができるようにお祈りください。世界中のLGBTQのコミュニティに住んでいて、福音に触れる機会の少ないアジアの多くの若者のためにお祈りください。教会で育ちながら、教会から離れてしまった人たちを、教会があきらめてしまうことがないようにお祈りください。

■行動する教会

ウスマンさんが新型コロナに似た症状を発症したとき、雇用主は彼に検査を受けるよう求め、その結果を待つ間、彼は働くことが許されませんでした。ウスマンさんと彼の妻、そして子どもが自宅隔離されている間、アメリカ人の友人が食料品を買ってきてくれました。この何ということもない親切がウスマンさんにはとても大きく、アメリカ人が「外国人」にこんなによくしてくれることに、ウスマンさんは驚いた様子でした。このちょっとした親切が、重要な霊的話し合いの扉を開いてくれたのです。

お祈りください: ウスマンさんのように、目に見える形で教会のない地域から来た人たちが、海外で勉強したり働いたりする中で教会の活動を目にし、その愛によってイエス様の弟子たちを認識できるようにお祈りください。主の民の中にある主の愛を通して、新しい信者が福音を携えて帰国し、キリストへと導く新しい動きが未開拓の地域で始まるようにお祈りください。

■束縛から解放される

ロサンゼルスに住む多くのタイ人と同じように、インさんとソムワンさんは悪霊を恐れていました。ソムワンさんは悪霊を追い払うために、首にお守り、手首に魔よけの紐を巻いていました。インさんは毎日、霊界に対して礼拝をし、時にはタイの仏教寺院に出向いて功德

を積んでいました。彼女がキリストを信じるようになった当初は、これらの習慣を止めていましたが、次第にそのような習慣とキリストへの信仰を妥協するようになりました。ソムワンさんとの口論も、彼女がキリストから離れるにつれて増え始めました。2021年の暮れ、彼女は神様と正しい関係を築かなければならないと確信しました。そして、夫との関係を直すことに取り組み、夫のために祈るようになりました。インさんの人生に真の変化が見られるようになり、ソムワンさんは自らも真理を探求し始めました。そして今年、インさんとソムワンさんはカリフォルニアの沖合で洗礼を受けたのです。

お祈りください: イエス様が敵の束縛を打ち破り、インさんとソムワンさんのように霊的に囚われている人を解放してくださることを感謝しましょう。彼らがキリストのうちに成長し、カリフォルニアの他の多くのタイ人を、束縛を解いてくださる方への信仰に導いていけるようお祈りください。

第二週

ウクライナでの戦争は歴史上最も急速な難民危機を引き起こし、500万人以上のウクライナ人が国を離れ、さらに数百万人が国内避難民となっています。ウクライナには、東アジア系の人々が多く住んでいます。今週は、この戦争によって、移動する東アジア人たちがどのような影響を受けているかに注目しましょう。

■帰国者と難民

ウクライナに滞在していた中国人医学生ジャネーさん（22歳）は、2月23日に非常事態の更新情報をスマホで受けたとき、「ロシアが本当に攻撃してくるかも」とクラスメートと冗談を言っていました。しかし、その日の夜に彼女は父親と一緒に首都を脱出することになったのです。2月のロシアの侵攻以来、何百万人もの人々がウクライナを離れています。その中には、ウクライナ人の配偶者、短期労働者、留学生など、ウクライナに定住していた多くのアジア人も含まれていました。多くの東アジア人がアジアの母国に送還された一方で、ヨーロッパに住み続けている人もいます。

お祈りください: 侵略によって人生を狂わされた何百万人というウクライナ人と、ジャネーさんのような状況の外国人のためにお祈りください。アジアへの帰国者と難民が、直面している大きなトラウマから癒やされるようにお祈りください。周囲のクリスチャンがキリストにある希望の理由を、移動中の東アジアの人々に伝えることができるように。

■2つの文化背景を持つ人々

レナさんは、30年前にウクライナに移住したベトナム人の両親のもとで生まれました。彼

らは最初、靴工場で働き、その後はキーウの市場で衣類を売り始めました。レナさんは女性向けの衣料品をデザインする仕事を始めました。両親とベトナム語で会話し、ベトナムの伝統を大切にしながらも、彼女はウクライナ人であり、何千人ものベトナム系ウクライナ人の一人です。また、何万人もの韓国系ウクライナ人もいます。そのほとんどは、中央アジアに強制移住させられ、その後ウクライナに移住した韓国人の子孫です。韓国系ウクライナ人の多くは韓国語をあまり話せません。ウクライナの国民は民族的に多様であり、アジアにルーツを持つ人々も多くいます。

お祈りください: ウクライナの人々の安全と、侵略と戦闘の終結のためにお祈りください。この戦争によって損失と痛みが生じていても、キリストが栄光を受け、人々がキリストを知るようにお祈りください。ベトナムや韓国のような東アジアの国への帰国者が、他の人々に福音を伝える情熱を持っていることに感謝。そして、彼らがレナさんのように多文化の背景を持つ人々に親近感を持っていることにも感謝してください。

■法的に宙ぶらりんの状態で

「私を救ってください。私は今ウクライナにいます」というメッセージで、2月24日のソーシャルメディアへの投稿は始まりました。「死にたくありません。私は一人っきりで無力です。どうか助けてください。」イリさんは1年半前に母国を逃れてきました。彼は同じ民族の多くの若者が行方不明になっていることを知っていました。そして、彼らが同じ少数民族の他の人々と一緒に労働キャンプに連れて行かれたのではないかと恐れていました。彼はウクライナ政府によって亡命申請が承認されるのを待ち、法的に宙ぶらりんな状態にありました。3月1日、イリさんは国境を越えてポーランドに入り、そこで新たに亡命手続きを開始しました。彼はまだ非常に弱い立場にあり、亡命申請の手続きには何年もかかる可能性があります。

お祈りください: イリさんのように適切な書類を持たず、母国に帰りたがらない多くの東アジア人のためにお祈りください。クリスチャンがイリさんや他の亡命希望者に手を差し伸べ、キリストだけが与えることのできる希望を彼らが見出すことができるようにお祈りください。イリさんの母国に帰った人が、彼と同じ民族に福音を伝える情熱を持てるようお祈りください。

■宣教の心

若い頃、ベトナムからソビエト連邦に留学したミンさんは、ウクライナ人に導かれて主を信じました。現在、彼は在ドイツのベトナム人教会の牧師を務めています。ウクライナからドイツに難民が押し寄せたとき、彼はウクライナの避難民を受け入れる場所がある人を募りました。教会はこれに応え、食料や衣類を提供し、難民キャンプを支援しました。ミン牧師

も、戦争が勃発した時に母国に一時帰国していたウクライナ人の宣教師一家を受け入れることができました。

お祈りください:福音派の教会が恐怖、痛み、苦しみに直面している人々(信者も未信者も)のために奉仕できていることを、主に感謝してください。難民の世話をする人たちに持久力が与えられるようにお祈りください。東アジアのクリスチャンが様々な背景を持つ難民に手を差し伸べることで、キリストの宣教に対する思いが教会の内に増し加わるようにお祈りください。母国に帰ろうとする人々がその準備として、ミン牧師のように失われた魂を探し求め、救いへと導く重荷を持つ者とされていくようにお祈りください。

■別離

コラゾンさんは、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった時には、ウクライナ人の夫とキウウに住んでいました。18歳以上65歳未満の男性は出国できないため、彼女は夫を残して2人の子どもだけを連れてドイツに逃げました。彼女は夫から遠く離れたフィリピンに戻りたくありません。ウクライナに住む何千人もの東アジア人が、他のヨーロッパ諸国に逃れています。ドイツでは、政府から経済的支援を受け、すぐに労働許可証を取得することができます。ドイツでは熟練労働者が不足しているため、多くの人がすぐに仕事を見つけ、相応の収入を得ていますが、課題は大きいのです。彼らは新しい言語と文化を学び、サポート体制を見つける必要があります。子供たちは地元の学校に通い、新しい言語と文化を学ばなければなりません。コラゾンさんと彼女の子どもたちのように、夫や父親と離ればなれになってしまう人も少なくないのです。

お祈りください:コラゾンさんのように最近入国してきた人たちに手を差し伸べるができるよう、神様がドイツのような国の教会を整え続けてくださるようにお祈りください。痛み、孤立、恐れの中で、多くの人がキリストのもとに来ることができるようにお祈りください。東アジアの教会が、多くの痛みや悲しみを抱えて帰国してくる人たちを温かく迎え入れることができるようにお祈りください。

第三週

海外でキリスト教を学び、信仰を持ったアジアの人々は、帰国後、全く異なる状況の中で信仰を育むというユニークな課題に直面します。帰国前の準備と、新しいコミュニティでの地元のクリスチャンとのつながりが、スムーズな移行への鍵となることが多いのです。

■困難な移行

マミさんは英国で英語を勉強している間、聖書の勉強会に来ていましたが、彼女は特に福音

に対してオープンな様子ではありませんでした。語学コースが終了した後、彼女はイギリスの別の場所にある児童養護施設にボランティアに行きました。その間に他のクリスチャンと出会い、定期的に教会に通い、洗礼も受けました。しかし、日本に帰ってくると教会に行くこともなく、クリスチャンの友達もできませんでした。「イギリスでは、クリスチャンになるのが自然だと感じていたのです」と彼女は言います。「でも、日本に戻ったら仏教のあり方に戻るのが自然に思えたのです。」悲しいことに、海外で信仰を持った日本人の80%は日本の教会につながらないと言われていています。

お祈りください： マミさんや他の帰国者が日本のクリスチャンとつながり、日本人でありクリスチャンであることの、両方のあり方を学べるようにお祈りください。海外で信仰を持った多くの日本人が帰国者の集いに参加し、帰国後のクリスチャン生活に備えられるようにお祈りください。

■ 神様を求め続ける

イギリスの小さな都市で英語を勉強していたケイコさんは、他の学生たちと一緒にクリスチャンの交わりの集会に参加しました。神様について教えられることを理解するのは難しかったものの、彼女はそこでは自分が真に愛されていると感じることができました。そして、クリスチャンの音楽が彼女の心に響き、彼女は自分で多くの曲を演奏できるようになりました。帰国後、彼女は地元にいる宣教師一家を紹介されました。一家とはすぐに打ち解け、ケイコさんは子どもたちから叔母さんのように慕われました。その家庭で、彼女は日本人のクリスチャンと出会い、その人たちと人生の疑問や聖書についてより深く考えることができるようになったのです。

お祈りください： ケイコさんの人生の中で始まった良い働きのために神様を賛美しましょう。彼女と、彼女と一緒に聖書を学んでいる他の日本人がキリストへの救いの信仰を持つことができるようにお祈りください。海外でキリスト教を学び始めた日本人が、帰国後もキリストを求め続けることができるようにお祈りください。

■ オンライン上での収穫

ミンさんはアメリカの大学で博士課程に在籍中、オンラインと対面式で聖書についてのディスカッションに忠実に参加しました。その後、彼女は母国に帰国しましたが、最近オンラインの聖書勉強会で、彼女は「人生をかけてイエス様についていきたい！」と語りました。コロナ禍の間にオンラインでの働きが発展したように、今も多くの人が国境を越えてオンライン聖書研究を通してイエス様を見出し、信仰の内に成長しています。しかし、彼女の国では新しい宗教の規制ができ、オンライン上の宗教的な内容には多くの制限がかけられています。

お祈りください: ミン博士の新しい信仰とイエス様との関係が強められ、彼女が地域の良い教会につながるができるようにお祈りください。様々な国で法的規制が強化される中、オンラインでの働きがイエス様を求める人々の助けとなり続けるようにお祈りください。

■ バトンをつなぐ

メイさんが聖書の勉強会に参加したのは、イギリスでの留学生活も終わりに近づいた頃でした。聖書を開くのは初めてでしたが、彼女は熱心にさらなる学びを希望しました。それから6週間、彼女は地元のクリスチャンと何度も会いました。会うたびに彼女は聖書の多くの章を読んで、あふれるほどの考えや質問を持ってきました。そして、6週間後に彼女は帰国しました。それからどうなったでしょうか？感謝なことに、メイさんのイギリス人の友人は、バトンを渡すことができました。彼女は、メイさんが聖書の勉強を続けるために、彼女の街にいるクリスチャンの女性を2人紹介したのです。多くの東アジアの人々は、海外でキリストへ向かう旅路を始めますが、帰国直後はまだ信仰が確立していないのです。

お祈りください: 外国人に福音を伝えている人たちが、まだ信じて間もない信者や求道者を母国の教会やクリスチャンにつなげることができるようにお祈りください。メイさんが信仰を持つようにお祈りください。

■ 共通語：祈り

ソンさんは、息子がアフリカで仕事をすることになり、自分もアフリカにやってきました。彼女はすぐにアフリカ人のクリスチャンであるネリーさんと友達になりました。言葉も年齢も文化も違いますが、2人とも祈りの伝統の強い農家の出身で、絆ができました。ネリーさんは中国語を1年勉強しただけで、ソンさんは英語を一言も話せませんでした。簡単な言葉や身振り手振り、豊かな表情を通して、彼女たちはお互いの愛を伝え合うことができます。時には沈黙の内に座って目を閉じ、頭をたれ、手をつないで、互いのために祈ることもあります。祈りを通して互いの違いは次第に消えていきます。言葉や文化、年齢の違いを超えて、キリスト（とお互い）への深い愛情が伝わるのです。

お祈りください: 福音の力は、人々の間のあらゆる違いや分裂を乗り越えることができることゆえに、神様を賛美しましょう。世界の教会が多様性の中で一致を保ちながら成長し続けることができるようにお祈りください。

第四週

信仰を持つようになった東アジアの人々は、自分の国の人々に福音を伝えるだけでなく、文

化を超えて、自分の民族ではない人々にも手を差し伸べています。今週は、移住する東アジア人がどのように世界的な宣教の力の一部になっているかに注目します。

■ 世代間の挑戦

ビルマ軍が彼の家族が住んでいた家と農場をすべて焼き払ったとき、ソウ・フトゥーさんは3歳でした。彼の家族はタイの難民キャンプに逃げ、最終的にはシカゴに定住し、カレン語の教会で礼拝に参加しています。カレン族のコミュニティの若者の多くは、カレン語では英語ほどしっくり感じる事ができず、教会に来ることを嫌がり始める人たちもいます。ソウ・フトゥーさんが夏のキャンプで子どもたちと働き始めると、子どもたちは彼の証しに応答し、神様は彼をフルタイムの働きへと導き始められました。

お祈りください: 世界中にある移民のための教会、特にビルマからのカレン族やチン族のような新しく小さな移民グループが直面している世代間の問題のためにお祈りください。移民教会の牧師や長老、親たちが、若い世代の信仰を育みつつ、自分たちの文化的遺産と若い世代を有意義につなげるため、主からの知恵が豊かに与えられるようにお祈りください。移民第二世代の収穫のために、より多くのバイカルチャーのワーカーが与えられるようにお祈りください。移民教会にリバイバルが波のように次々と起こり、海外で弟子訓練された帰国者たちが母国に宣教の熱意を持ち帰るようにお祈りください。

■ 第2.0世代

ポールさんの母親は、幼い頃にポートピープルの一人として、新たなより良い生活を求めて両親とともにベトナムを離れました。彼女の家族はやがて英国にたどり着き、そこで彼女はキリストを信じました。それから約40年後、ポールは母親の生まれた国で6か月間過ごしました。祖母がベトナム語を話すのを聞いて育ったため、彼は比較的早く言葉を覚えることができ、他の青年たちとすぐに打ち解け、彼らと共に教会の礼拝を導き、小さな教会の伝道活動を手伝いました。

お祈りください: 東アジア人で移動する二世、三世の子どもたちのためにお祈りください。ポールさんのような多くの若者が、両親や祖父母の国に福音を伝える選択をするように。新型コロナウイルスの勢いの後退に伴い、より多くの若者がアジアに短期旅行をすることができるようにお祈りください。

■ 3つの王国

夫の不貞に心を痛めたブーンナムさんの母親は、彼と彼の妹と一緒に英国に移住しました。青年になった彼は自分のルーツを見つけようとタイへ戻りました。そしてある店の女主人ボリブンさんに出会い、彼女からイエス様のことを聞きました。やがて2人は結婚し、英国

に定住し、ともに信仰生活を歩み始めました。英国に移住している 52,000 人のタイ人のうち、クリスチャンは 200 人未満 (0.3%) です。ブーンナムさんとポリブンさんは、英国にいる多くのタイ人がイエス様を知らないことに心を痛め、タイ人の救いを願って神学校に行き、現在フルタイムでタイ人ディアスポラ伝道の働きを始めています。タイ王国と英国 (United Kingdom) の両方で生きた 2 人は、神様の御国の拡大においてユニークな役割を与えられているのです。

お祈りください：ブーンナムさんとポリブンさん夫妻の英国在住タイ人への働きが祝され、大きな実りを得ることができるよう。英国のタイ人の間で霊的覚醒が与えられ、多くの人々がタイに福音を持ち帰ることができるようにお祈りください。

■共に奉仕する

東南アジアから大学院に進学するために来日したホーさんは、まだ年齢も若く、比較的信仰生活も短いクリスチャンでした。教会のコミュニティは彼を温かく迎え入れ、聖書の知識を深めるために多くの機会を与えてくれました。また、地域教会の働きに参加することを通して、彼にチャレンジを与えました。彼は奉仕をし、奉仕する先の人々から学ぶことを通して、キリストの弟子として成長し始めました。やがて、神様は彼を異文化での働きに召され、彼は日本への宣教師となりました。

お祈りください：人々をあたたく受け入れ、弟子を作る教会のゆえに主を賛美しましょう。世界中の教会が同じように外国人を歓迎し、彼らを働きに参加させることができるように。移動する東アジアの人々がキリストのうちに成長し、世界の最も福音化されていない人々のところへ行くというチャレンジに応じられるようにお祈りください。

■仕事を求め、宣教を見出す

ホアンさんはベトナムを離れ、マレーシアで兄と同じ工場で働いていました。地元のクリスチャンのグループが、この青年たちに福音を届けてくれました。ホアンさんは当初、兄がイエス様を信じるようになったことに反感を持ち、兄と口論もしました。しかし、故郷の母親が命にかかわる病気になったとき、兄と他のクリスチャンたちが祈った祈りがホアンさんに深い印象を与えました。そして、神様は母親の命を助け、ホアンさんは信仰を持つようになったのです。やがてベトナムに戻った 2 人は、教会の開拓を手伝うようになり、神学校に通い、音楽の賜物を活かして市内で新しく始まった教会で賛美を導きました。

お祈りください：マレーシアの教会とホアンさんの家族を通しての主のみわざと、多くの帰国者クリスチャンの生き生きとした信仰ゆえに主に感謝しましょう。ベトナムや他の国の帰国者たちが神様の召命を聞き、従うことができるようにお祈りください。

その他のお話

■最高のクリスマス・プレゼント

ブーンナムさんとポリブンさん夫妻（上述の「3つの王国」参照）は、英国に移住してきた52,000人のタイ人のためにフルタイムで奉仕しています。今年のクリスマスに、エイミーさんという女性と彼女の3人の若い娘さんたちが、夫妻のクリスマス・パーティーにやってきました。エイミーさんは福音を聞いて、キリストへの信仰に導かれました。

お祈りください: エイミーさんの、キリストとの新しい霊的旅路のためにお祈りください。エイミーさんをはじめ、海外で信仰を持った他のタイ人クリスチャンたちが、母国の家族に信仰を伝える勇気と知恵を持つことができるようにお祈りください。

■人身売買の被害者

ドイツの警察はベルリンを、ベトナム人が国内各地や他のヨーロッパ諸国へ売られる人身売買の拠点と考えています。ベルリンとワルシャワの仲買人たちは、ベトナム人の男性、女性、子どもを強制労働や性的搾取のために移送しています。他の人々は、お金を払ってヨーロッパ諸国に密入国しますが、衣料品工場、建設業、売春宿、家庭サービス、大麻農園、ネイルバー、カラオケバー、マッサージ店、レストランなどで搾取されることが多いのです。業者は被害者の借金に利息を要求し、借金額はどんどん膨らみます。ベトナムのネットワークは、年間約18,000人をヨーロッパに密入国させていると推定されています。

お祈りください: ドイツには少なくとも35のベトナム人の福音的な教会があります。神様の民が人身売買の犠牲となった人々への大きな支援とケアの源となるようにお祈りください。

■女性皇族と総理大臣

多くの著名な日本人が海外留学を経験しています。天皇陛下の奥様である雅子さまは、ハーバード大学とオックスフォード大学に留学されました。姪の佳子さまは英国リーズ大学に、眞子さまはエジンバラ大学にそれぞれ1年間留学されました。日本の元首相、安倍晋三氏は南カリフォルニア大学に留学していました。

お祈りください: 交流の活発な各都市で、日本の留学生やビジネスマンに福音を伝える人々を神様が起こしてくださるようお祈りください。